

静岡県における16歳から20歳男女の25年間の体型の年代変化に関する研究
—多変量解析を用いた体型分類による年代別出現率—

静岡大教育 大村知子 ○渡邊敬子

目的 第44回家政学会総会において1967年、1978年、1991年の調査資料による身体26項目ならびに身体比例値の25年間の年代差について報告した。その集団の中には様々な体つきが含まれることに着目し、本報では、年代変化についてさらに多変量解析により体型分類をして、年代別の出現率から検討することを目的とした。

方法 解析に用いた資料は、静岡県在住の大学生男女185名を対象に1990年7月～9月に実施した身体計測調査と、1991年11月～1992年1月静岡県立某高等学校（前2回の調査と同一校）に在籍する男女370名を対象に実施した調査の結果、ならびに工技院体格調査の静岡地区における1967年、および1978年調査の計測記録原票を用いた。1990年～1992年の調査は工業技術院体格調査の方法に基づき、男子50項目、女子52項目の身体計測を、マルチン式計測器具などを用いて実施した。今回の解析項目は衣服寸法に関係の深い計測値19項目と身体比例値14項目である。男女別に全資料を一括して主成分分析を施し、この主成分得点を用いてラスタ分析を行い体型分類を試みた。

結果 身体比例値を用いた主成分分析の結果、固有値1以上は第3主成分までであったので、個人の第3主成分までの主成分得点を用いてクラスター分析を行い、7つのクラスターに融合した。四肢の比が小さく、背肩幅や周径の比が大きいという特徴をもつクラスターに1967年の19・20歳では男子4割、女子5割の者が属したのに対して、1991年はこれに属する者が減少し、代わって四肢の比や周径の比が大きいクラスターに属する者の割合が高くなった。25年前と比べ、近年は男女とも各クラスターに分散して出現し、体型が多様化するなどの傾向を示した。